

最優秀賞(学生部門) 西尾敬太

受け継いだ『いのち』の先に

私は大学生。でも周りとは少しだけ違う。私の心臓は、私
のものではない。知らない方からの善意によって、いただいた
心臓で生きている。

小学6年生の夏、特発性拡張型心筋症と診断された。

2014年7月 目を覚ますと、そこにあるのは知らない
天井。私の身体から伸びる赤々とした管。体外式の人工心臓
につながれていた。水分制限、入浴の禁止、寝返りを打つこと
さえできないベッド上の生活、家族に会うことさえ難しい、そ
んな毎日が3か月続いた。1分1秒がこんなに長いなんて。

2014年10月 体外式から植込型補助人工心臓にする
手術を受けた。歩くこと、シャワーに入ること、水分制限が
なくなったこと、家族にも会えるようになったこと。できて
当然、それが当たり前だと思っていたことが、特別なものに
感じ、日常を送ることができる“ありがたさ”を知った。見落
としていた幸せを拾った。

2015年5月 アメリカで心臓移
植を受けた。指先まで伝わる鼓動。
人工心臓がついていない私の身体。機
械ではなく、自分の“ちから”で確か
に動いている心臓。やっと戻ってき
た。ICU(集中治療室)で目覚めたあの
日から、ずっと希望に生きてきた“家に帰ること”。

あと少し。頑張れ、自分。人工心臓で命を繋いだ10か月
間、死と隣り合わせの毎日。いつ途絶えるのか、明日は来る
のか、死の恐怖で押し潰されそうな日々を送っていた。しか
し不思議なことに、幸せもより強く、鮮やかに、感じていた。
確かに今、生きているんだ。いや、生かされているんだ。沢
山の人によって救われた私の命。今度は私が救う側になり
たい。自分と同じような境遇に立たされた患者さんやその
ご家族に寄り添った、自分だけにしかできない心のサポート
までできるような、そんな臨床工学技士になりたい。

小児の補助人工心臓治療に携わり、患者さんにも現場で
も必要とされる、そんな人になりたい。私は大学生。周り
とは少し違っているけれど、夢に向かって進み続けています。

